

課目名	香粧品化学					
課目名(英)	Cosmetic Chemistry					
単位数	1	時間数	30	担当者	渡邊 正明	
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2018年香粧品化学教員資格取得	
対象学科・学年	美容科2年					
授業概要	香粧品における化学物質の名称とその作用についての基礎的な知識定着を図るとともに、国家試験の傾向をつかみ対策を行うことで、国家試験化学分野での満点取得を目指す。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					香粧品原料について名称および使用について説明できる。
	○					社会的な意義や法的な根拠および安全性について学び、そこから派生する選択問題の与えられた選択肢の中から適切な答えを判断することが出来る。
テキスト・教材 参考図書	教科書「香粧品化学」					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	1章 香粧品概論				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	2	2章 香粧品用原料				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	3	2章 香粧品用原料				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	4	2章 香粧品用原料				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	5	3章 基礎香粧品				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	6	4章 メイクアップ用香粧品				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	7	5章 頭皮・毛髪用香粧品				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	8	5章 頭皮・毛髪用香粧品				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	9	6章 芳香製品と特殊香粧品				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	10	2章 香粧品用原料(復習)				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	11	2章 香粧品用原料(復習)				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	12	5章 頭皮・毛髪用香粧品(復習)				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	13	6章 芳香製品と特殊香粧品(復習)				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
	14	国家試験過去問題 想定問題				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。
15	国家試験過去問題 想定問題				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じ、復習を行っておくこと。	
評価方法	①定期試験(筆記) ②授業内小テストを実施 ③成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	○				評価割合
	小テスト	○				80%
						20%

履修上の注意	授業内で配布するプリントは国家試験対策に有効なものであり紛失など無き様注意して頂きたい。 また授業内で国家試験へのポイントを説明する為、必ずノートを取っておくこと。						

課目名	文化論Ⅱ						
課目名(英)	Theory of Barber and Beauty culture						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	吉田理恵子		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美容文化論教員資格取得(平成10年4月)		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	人の歴史の最古から、美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。歴史の中で創り上げられてきた「美しさ」があり、現代のものとの融合することで新しいスタイルを生み出すことが出来る。文化論の中にはデザインを発想する為のヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在する。文化を知り学び、知識を得ることにより、お客様が求める美しくさを的確に理解し、幅広いスタイル提供が出来る、即戦力に繋がる社会人を目指す。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					日本、西洋のファッションの文化史における文化の流れを理解し説明することができる。	
	<input type="radio"/>					日本のファッションにおける、髪型、メイクを説明することができる。	
	<input type="radio"/>					礼装の種類を理解し、歴史を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	日本理容美容教育センター 文化論教科書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 総論				教科書を使い、予習復習を行う。	
	2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史				教科書を使い、予習復習を行う。	
	3	第3章ファッション文化史(日本編) 縄文・弥生・古墳時代・古代				教科書を使い、予習復習を行う。	
	4	第3章ファッション文化史(日本編) 中世・近世Ⅰ、Ⅱ・近代				教科書を使い、予習復習を行う。	
	5	第3章ファッション文化史(日本編) 現代Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				教科書を使い、予習復習を行う。	
	6	まとめ①(第1章～第3章 復習、小テスト①実施)				教科書、小テストを使い復習をする事。	
	7	前期末試験、回答・解説				教科書、予習をする事。	
	8	第4章ファッション文化史(西洋編) 古代エジプト～近代Ⅰ				教科書を使い、予習復習を行う。	
	9	第4章ファッション文化史(西洋編) 近代Ⅱ～現代Ⅶ				教科書を使い、予習復習を行う。	
	10	まとめ②(第4章 復習、小テスト②実施)				教科書、小テストを使い復習をする事。	
	11	第5章礼装の種類 和装の礼装・洋装の礼装				教科書を使い、予習復習を行う。	
	12	まとめ③(第4章 復習、小テスト③実施)				教科書、小テストを使い復習をする事。	
	13	まとめ④(国家試験対策)				対策プリントを使い、予習・復習を行う。	
	14	まとめ⑤(国家試験対策)				対策プリントを使い、予習・復習を行う。	
15	後期末試験、回答解説、国家試験対策				対策プリントを使い、復習を行う。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 態度・意欲は、出席・授業中の居眠りの回数などで評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート	○					5%
	授業態度				○		5%
履修上の注意							

課目名	運営管理					
課目名(英)						
単位数	1	時間数	30	担当者	山口 隆司	
実施年度	2021	実施時期	後期	担当者実務経験	麻生塾グループ校で教鞭をとる	
対象学科・学年	美容科2年					
授業概要	<p>運営管理は、よい美容サービスにより顧客満足を実現することで、店を守り発展させていく取り組みをいう。その取り組みの大半は経営者によって行われる。多くの人は従業員として雇用されることでキャリアをスタートさせるのではあるが、経営者の考えていること、目指していることを知っておくことは、従業員として活躍するためにも、将来自ら経営者として成長していくためには重要なことである。この科目では、このような観点から、「①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割」「②雇用する責任や働くうえで求められること」「③顧客を満足させるサービスとは何か、それをどう実現するか」の3点を中心に学びます。</p>					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標	
	○				経営に必要な概念や専門用語について理解する	
		○			経営に必要な専門用語について正しく活用ができる	
テキスト・教材 参考図書	公益財団法人 日本理容美容教育センター 運営管理					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	第1編 経営者の視点	第1章 経営とは・経営者とは①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	2	第1編 経営者の視点	第1章 経営とは・経営者とは②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	3	第1編 経営者の視点	第2章 美容業の経営について①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	4	第1編 経営者の視点	第2章 美容業の経営について②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	5	第1編 経営者の視点	第3章 資金の管理①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと		
		第1編 経営者の視点	第3章 資金の管理②	授業中に実施する小テストについて復習すること		
	6	第3編 顧客のために	第1章 サービス・デザイン①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	7	第3編 顧客のために	第2章 サービス・デザイン②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	8	第3編 顧客のために	第2章 マーケティング①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと		
		第3編 顧客のために	第2章 マーケティング②	授業中に実施する小テストについて復習すること		
	9	第3編 顧客のために	第3章 サービスにおける人の役割①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	10	第3編 顧客のために	第3章 サービスにおける人の役割②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	11	第2編 人という資源	従業員としての視点 第1章 人という資源①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
	12	第2編 人という資源	従業員としての視点 第1章 人という資源②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること		
13	第2編 人という資源	従業員としての視点 第2章 健康・安全な職場環境の実現①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
14	第2編 人という資源	従業員としての視点 第2章 健康・安全な職場環境の実現②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
15	第2編 人という資源	従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと			
	第2編 人という資源	従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から②	授業中に実施する小テストについて復習すること			
評価方法	(1)授業の中で小テストを随時実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎				90%
	小テスト	○				10%

<b>履修上の注意</b>	教科書の内容や専門用語は、将来、実務に従事する際に必ず要求されるものです。正確に理解し、正しく活用することができるように学習を進めてください。						

課目名	ヘアテクニック【ヘアカットⅡ】						
課目名(英)	Hair Technique (Hair Cut)						
単位数	1単位	時間数	30時間中20時間	担当者	遠藤広美・江藤登志美・荒木成美		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	国家試験合格に向けて課題である美容技術の基礎(レイヤーカット)を身に付ける。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			国家試験第一課題(レイヤーカット)を身に付ける事ができる。	
			○			頭の形を理解し正確に形として仕上げる事ができる。	
		○				道具の使用の仕方、ウィッグの使い方を丁寧に言い衛生面を綺麗に保つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習道具 カット道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	国家試験第1課題ヘアカッティング (コームの使い方・ブロッキングの仕方)				居残り 反復練習	
	3~4	国家試験第2課題ヘアカッティング (ブロッキングの仕方・切り方手順)				居残り 反復練習	
	5~6	国家試験第3課題ヘアカッティング (ブロッキングの仕方・切り方手順・反復練習)				居残り 反復練習	
	7~8	国家試験第4課題ヘアカッティング (切り方手順・反復練習・スタイルの確認)				居残り 反復練習	
	9~10	国家試験第5課題ヘアカッティング (切り方手順・反復練習・スタイルの確認)				居残り 反復練習	
	11~12	国家試験第6課題ヘアカッティング (スタイルの確認・時間を意識して作業)				居残り 反復練習	
	13~14	国家試験第7課題ヘアカッティング (スタイルの確認・時間を意識して作業)				居残り 反復練習	
	15~16	国家試験第8課題ヘアカッティング (スタイルの確認・タイム追い20分)				居残り 反復練習	
	17~18	国家試験第8課題ヘアカッティング (スタイルの確認・タイム追い20分)				居残り 反復練習	
	19~20	国家試験第8課題ヘアカッティング (タイム追い20分・仕上がり審査)					
	評価方法	(1) 小テストを2回実施 (2) 課題に対しての理解度。 (3) 授業態度の評価。 成績評価基準⇒S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
小テスト				◎			60%
宿題・レポート					◎		30%
授業態度					○		10%

履修上の注意	授業開始前に準備を整えておく。						

課目名	ヘアテクニック【シャンプー＆ブロー】						
課目名(英)	syampoo & blow						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	遠藤広美・江藤登志美・山口薫		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	サイドシャンプー及びバックシャンプーの技術工程を理解し、反復練習を実施することで卒業後の即戦力となり得る技術習得を目指す。また、基本のブローテクニックをモデルに対して練習していく事で、ウィッグでは体感できない注意点を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			バックシャンプーの手順を覚え、手技を習得する	
				○		お客様への施術を通して、快感をあたえ、心身のリラクゼーション効果を高めるよう配慮できる	
			○			即戦力となるレベルのシャンプー技術を習得する	
			○			ブローのテクニックを実施し、様々なヘアスタイルに対してのスタイリングの工夫ができる	
			○			ブローテクニックを人頭で実施する事で、その注意点やテクニックを理解する	
テキスト・教材 参考図書	美容技術理論① シャンプー＆ブロー道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	バックシャンプー 手順の確認・復習				バックシャンプー の手順を事前に確認しておくこと	
	2	ブロースタイリング 相モデルによるハンドブローテクニック				ブローの基本技術を事前に復習しておくこと	
	3	バックシャンプー プレーンリンスのテクニック				ストロークの練習をしておくこと	
	4	ブロースタイリング 相モデルによるストレートブローテクニック				ブローの基本技術を事前に復習しておくこと	
	5	バックシャンプー あわ立てとストロークの大きさ・強弱				ストロークの練習をしておくこと	
	6	ブロースタイリング 相モデルによるストレートブローテクニック				前回の技術を事前に復習しておくこと	
	7	バックシャンプー トリートメントテクニック				ストロークの練習をしておくこと	
	8	ブロースタイリング 相モデルによる内巻きブローテクニック				前回の技術を事前に復習しておくこと	
	9	サイドシャンプー 手順の確認・相モデルによる反復練習				ストロークの練習をしておくこと	
	10	ブロースタイリング 相モデルによる内巻きブローテクニック				前回の技術を事前に復習しておくこと	
	11	サイドシャンプー 相モデルによる反復練習				ストロークの練習をしておくこと	
	12	ブロースタイリング 相モデルによる似合わせブロー				前回の技術を事前に復習しておくこと	
	13	サイドシャンプー・バックシャンプー 相モデルによる反復練習・実技テスト				実技テストの準備をしておくこと	
	14	サイドシャンプー・バックシャンプー 相モデルによる反復練習・実技テスト				実技テストの準備をしておくこと	
15	サイドシャンプー・バックシャンプー 相モデルによる反復練習・実技テスト				実技テストの準備をしておくこと		
評価方法	(1)実技テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		実技テスト		○	◎		90%
		授業態度			◎		10%



<b>履修上の注意</b>	特段の事情を除いて、授業は休まないでください。授業中の私語は、厳禁です。復習は必須です。						